

【神のチャンスをつかむために】

名前 _____

●ダビデ

イスラエル王朝第2代目の王(在位BC1000～961年頃)

ダビデはペリシテ人など周囲の民族との争いを治め、エルサレムに都をおくなど、イスラエル王朝の基盤を築いた。信仰面においても、やがて家系から救い主が生まれる事が預言されるなど聖書でも度々取り上げられている。国旗に「ダビデの星」がつけるほどに、イスラエルの人々にとってなくてはならない重要な人物である。

●ゴリヤテ

背丈は3メートル以上の大男であり、約100キログラムのよろいを着て、穂先の重さが約12キロも鉄のやりを自由に使う事のできる怪力であり、歴戦の戦士であった。

【聖書箇所】 第1サムエル17章22節～(新改訳第3版/抜粋)

17:22 ダビデは、その品物を武器を守る者に預け、陣地に走って行き、兄たちの安否を尋ねた。17:23 ダビデが兄たちと話していると、ちょうどその時、ガテのペリシテ人で、その名をゴリヤテという代表戦士が、ペリシテ人の陣地から上って来て、いつもと同じ文句をくり返した。ダビデはこれを聞いた。17:24 イスラエルの人々はみな、この男を見たとき、その前を逃げて、非常に恐れた。17:25 イスラエルの人たちは言った。「あの上って来た男を見たか。イスラエルをなぶるために上って来たのだ。あれを殺す者がいれば、王はその者を大いに富ませ、その者に自分の娘を与え、その父の家にイスラエルでは何も義務を負わせないそうだ。」17:26 ダビデは、そばに立っている人たちに、こう言った。「このペリシテ人を打って、イスラエルのそしりをすすぐ者には、どうされるのですか。この割礼を受けていないペリシテ人は何者ですか。生ける神の陣をなぶるとは。」17:27 民は、先のことばのように、彼を殺した者には、このようにされる、と答えた。・・・

17:31 ダビデが言ったことを人々が聞いて、それをサウルに知らせたので、サウルはダビデを呼び寄せた。17:32 ダビデはサウルに言った。「あの男のために、だれも気を落としてはなりません。このしもべが行って、あのペリシテ人と戦いましょう。」17:33 サウルはダビデに言った。「あなたは、あのペリシテ人のところへ行って、あれと戦うことはできない。あなたはまだ若いし、あれは若い時から戦士だったのだから。」17:34 ダビデはサウルに言った。「しもべは、父のために羊の群れを飼っています。獅子や、熊が来て、群れの羊を取って行くと、17:35 私はそのあとを追って出て、それを殺し、その口から羊を救い出します。それが私に襲いかかるときは、そのひげをつかんで打ち殺しています。17:36 このしもべは、獅子でも、熊でも打ち殺しました。あの割礼を受けていないペリシテ人も、これらの獣の一匹のようになるでしょう。生ける神の陣をなぶったのですから。」17:37 ついで、ダビデは言った。「獅子や、熊の爪から私を救い出してくださいました【主】は、あのペリシテ人の手からも私を救い出してくださいます。」サウルはダビデに言った。「行きなさい。【主】があなたとともにおられるように。」

●メモ

1:チャンスを掴む為に、私達は、“今”目の前にある事柄に忠実に仕えよう

今まで誰の目にとまらない羊飼いであったダビデが、一躍イスラエルの希望の星となり、やがて王となる大きな転機となった出来事が記されている。ともすると、私達はドラマティックな一瞬だけに目をうばわれがちである。しかし、神の下さったチャンス、恵みをつかみとる秘訣は、誰の目にもとまらないような毎日の積み重ねにある事をダビデの人生は私達に教える。

ダビデは預言者サムエルによって次の王となる事がつげられ、神の霊が注がれ、神の力を受けていた。(第1サムエル 16:1~12)しかし、彼を王としてついてくる家来は一人もおらず、家族さえその事を認めていなかった。そして、彼にまかされたのは、誰もが嫌う羊飼いととしての務めであった。ダビデは、誰も自分を尊んでくれない事に不平不満を募らせたり、若者特有の夢想家的な生き方にとられる事はなかった。たとえ、熊や獅子に勝ったとしても誰の目にもとまらない羊飼いととしての務めをダビデは忠実に果たしたのである。

しかし、熊や獅子と戦った羊飼いととしての経験が、ゴリヤテとの戦いの時に、活かされたのである。

私達にも、聖書を通して素晴らしい約束が与えられている。その約束、チャンスを自分のものとするのは、実は、誰にも目にとまらないような毎日の生活の中で、どれだけ忠実にその事柄に取り組んだかにかかっている。

家庭において、職場において、学び舎において、私達も、今、目の前にある事柄に心を尽くし、忠実に仕えるものとなろう。

●聖書の約束 ルカ 16:10

小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。

2:チャンスを掴む為に、私達は、神と共に歩む生き方を“身に着けよう”

熊や獅子に勝つことができたのは、神の助けと守りであった事をダビデは自覚していた。ダビデは、羊飼いととしての生活の只中で、神に頼り、神によって助けられて生きる生き方を身に着けていた。だからこそ、ゴリヤテに直面した時も、今回も神が私を助けて下さるという確信を持つことができた。聖書には、ダビデが王なった後、敵と戦う時に絶えず主に伺い、主に助けられて勝利した事が記されている。主に祈り、主の語りかけを聞き、主の助けによって様々な困難を乗り越えて生きる、「主と共に歩む」生き方の基盤は、羊飼いの時に形成されていたのである。

私達の人生にも突如として、ゴリヤテのような巨大な問題に直面する事がある。その時、恐れ惑い尻込みするのではなく、主への信仰によって乗り越えて歩む秘訣は、毎日の祈りと御言葉の生活にかかっている。

私達は、日ごろから神の言葉に耳をすませ、祈りを通して神の知恵と力を頂き、神の言葉に従って歩む「神と共に歩む」生き方を身に着けよう

●聖書の約束 マタイ 7:24~27

7:24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。7:25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。7:26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。7:27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」

【チャレンジしよう】

1:今、あなたにとって、心を尽くして忠実に行う事柄はどのような事柄でしょうか。又、その為に、今週どのようにしていきたいですか

2:主と共に歩む生活を身に着ける為に、今週どのようにしていきたいですか